

年 組 名前：

問1

つぎ ぶんしょう 次の文章の①から⑤にあてはまる

ことば こと 言葉を答えてください。

ちゅうおうし じゅうみん 『中央市の住民でつくる

豊富①の会は、不要になった

②や③を使った④と呼ばれる

ふきん づく 布巾を作り、⑤に寄付する活動に

と 取り組んでいる。』

- ① .....
- ② .....
- ③ .....
- ④ .....
- ⑤ .....

# 不要な古着 布巾に



集まってウエス作りをするメンバー  
中央・豊富健康福祉センター

## 中央・豊富の団体 製作し施設に寄贈

中央市豊富地区の住民でつくる豊富県ランディアの会（田中をさ子代表）は、不要になった布や古着を使ったウエスと呼ばれる布巾を作り、デイサービスに寄付する活動に取り組んでいる。新型コロナウイルス禍で従来行っていた施設訪問の活動ができなくなったことを受けて、ウエス作りに転換。古布の有効活用とともに、メンバー同士の交流の場にもなっている。

〈杉原みずき〉

同会はメンバーが当番制で中央・シルクの里デイサービスセンターを訪れ、入浴後の利用者の髪やお茶出しをしていた。コロナ禍で訪問できなくなった代わりに、昨秋からウエス作りを始めた。ウエスは綿100%の古布や古着を横17センチ、縦16センチに切って製作する。当初は各自が自宅で作っていたが、5月から月1回、豊富健康福祉センターに集まって作業。浴衣や下着、タオルなどを広げ、生地が重なった端を除いて切り分けている。

古布はメンバーが持ち寄るほか、会の事務局を務める市社会福祉協議会が市民から募集。完成品は市社協がデイサービスに届けている。デイサービスの体ふいたり、掃除や消毒に使ったりして、重宝しているという。

「一生懸命切ったものを使って利用者に気持ち良く過ごしてもらえたらうれしい」とメンバーの長田礼子さん（83）。田中代表は「コロナで会えなかったメンバーが集まり、話をする機会にもなっ

ている」と語る。市社協の担当者には「ウエスを必要とする施設は多く、古布も無駄なく使い切れる。活動が他の地域にも広がる」と話している。

(2022年6月14日付 山梨日日新聞 20面)

問2 なに 何がきっかけとなり、この活動は始めたのでしょうか。

.....

.....

問3 この活動をバックアップしている社会福祉協議会は、どのような仕事をしている団体ですか。

しら 調べて答えてください。

.....

.....